聖風（せいふう）

2018年5月号

●発行責任者／院長 森下剛久　●編集／企画広報室　●編集協力／プロジェクトリンクト事務局

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院
〒466-8633　名古屋市昭和区川名山町56番地
TEL 052-832-1181
http://www.seirei-hospital.org/

04

HOT NEWS

内視鏡検査、大腸CTで消化器がんの早期発見、早期治療を!

国立がん研究センターの統計では、消化器系のがんは死亡数、罹患率ともに上位に位置します。それ故、定期検診による早期発見、早期治療が重要となります。胃がんの検診は、バリウム検査が一般的ですが、最近は胃カメラでの検診も増えています。胃カメラではピロリ菌に感染している、または感染していた可能性が分かります。感染が確認された場合、ヘリコバクター･ピロリ菌を除菌することで、将来の胃がんの罹患率を下げられると言われています。当院では、最新の細い内視鏡で、負担の少ない検査を心がけています。大腸がんの検診は、まずは便潜血検査、二次精査には大腸カメラをおすすめしています。今までは入院検査のみの対応で、患者さんに金銭的･時間的な負担をおかけしておりましたが、4月から外来で対応できる体制を整えました。また入院での大腸カメラであれば、ポリープが見つかった場合、従来通りそのまま切除が可能です。さらに6月には大腸CTを導入予定。内視鏡を使わないため多量の下剤を飲む必要がなく、検査時間も短く身体的な負担が少ない検査が可能です。胃カメラは全営業日、大腸カメラは平日毎日、熟練した医師が施行します。胃カメラは、電話予約にも対応し、朝絶食で来院していただければ当日施行可能な場合もあります。定期的な検診で早期発見、早期治療に努めましょう。

内科医長
野田久嗣
（消化器内科）

院長メッセージ Message of the hospital superintendent

平成30年5月
病院長 森下剛久

再生元年

地域住民の皆さま、長らくお待たせしました。本年は新たに消化器内科、呼吸器内科を含む3名の常勤内科医が赴任し、機能不全に陥っていた領域に光が射し始めました。緩和ケア病棟「ホスピス聖霊」の診療体制を刷新しアクセスしやすい環境を整えました。新鮮なエネルギーが注入されることにより平成30年が聖霊病院再生への第1歩「再生元年」となり地域の皆さまに安心を提供できるよう職員一同切磋琢磨いたします。

聖霊シラバス vol.4 皮膚科

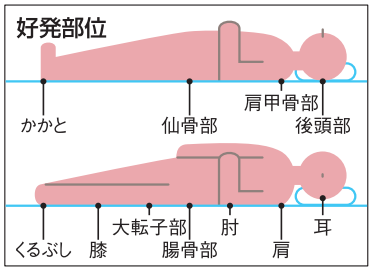
褥瘡（じょくそう:床ずれ）

病気の基礎知識

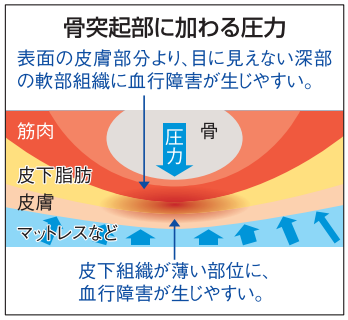
褥瘡は、そのままにしておくと感染症を引き起こし、命に関わることもある怖い病気。

寝たまま、座ったままの患者さんにできやすい。

褥瘡は長期間、同じ姿勢でいることによって、体重で圧迫された場所が赤みをおびたり、ただれたりする病気です。皮膚の一部が圧迫されると、血流が途絶え、皮膚の細胞に十分な酸素や栄養が行き渡らなくなり、褥瘡ができてしまいます。圧迫だけでなく、摩擦やずれなどの刺激が繰り返される場合も、褥瘡ができます。褥瘡になりやすい人は、自分で体位変換ができず、寝たきり状態が続く人。そのほか、車イスに長時間座ることで、尾骨の周辺や背中に褥瘡ができることもあります。また、栄養状態が悪いと、脂肪や筋肉が減少して骨が突出し、その場所に褥瘡ができやすくなります。



褥瘡が進行すると、皮膚の周辺組織が死んでいく。



褥瘡かどうか見分ける方法は、赤くなっている部分を指で押してみること。押しても赤みが消えなかったり、紫色や黒色っぽくなっている場合は褥瘡です。また、赤みだけで軽症に見える場合でも、実際には皮膚の深部で褥瘡が進行している場合もあります。褥瘡が進行すると、潰瘍（炎症を起こし、深くえぐれた状態）ができ、皮膚などの周辺組織が徐々に死んでいきます。さらに褥瘡から感染症を引き起こし、敗血症（血液に細菌が入って全身に回る病気）など命に関わる状態になることも…。褥瘡かなと思ったら、軽く考えずに、早めにかかりつけ医を受診しましょう。

診療部長メッセージ

できるだけ早く褥瘡を発見し、対策を練っています。

副院長 兼 皮膚科部長
春原晶代

当院では褥瘡対策チームを作り、週に1回、褥瘡のある入院患者さんを回診して個々の対策を練っています。このチームには、医師のほか、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフが参加。それぞれが専門性を持ち寄り、最適な治療・予防方法を実践しています。また、診療所からの依頼で、在宅療養中の患者さんを往診することもあります。ご自宅で褥瘡の重症度を診断し、適切な治療・予防法を診療所の先生とご家族に伝えています。

褥瘡は進行する前に見つけ、早めに治療することが大切。近年は体圧分散寝具の性能もかなり上がっているので、マットを交換するだけで症状が改善することもあります。在宅療養している方は介護保険も利用しながら、褥瘡を上手にコントロールしてほしいと思います。

治療の基礎知識

褥瘡を治すには「治療と予防」を同時にすすめることが重要です。

深い褥瘡に対しては陰圧閉鎖療法が効果的。

褥瘡の治療は、創の深さなどで異なります。浅い場合は皮膚の潤いを保ち、創を保護します。深い場合は、死んだ皮膚の組織をきれいに取り除いたりポケットになっている傷を切開したりします。毎日の処置は傷のところを水道水などで良く洗い、塗り薬をつけて、肉芽組織（毛細血管に富んだ組織）が盛り上がってくるのを待ちます。なお、当院では、塗り薬のほかに、陰圧閉鎖療法を積極的に取り入れています。これは、創口をドレッシング材（保護するシート）で密閉し、低圧で滲出液（しんしゅつえき）を吸引し続ける療法。肉芽組織が早く増殖し、治療効果を高めることができます。

下腿切断術後の陰圧閉鎖療法

褥瘡の予防に有効な、体圧分散マットの使用。

体圧分散エアマットレス

褥瘡は再発しやすい病気なので、治療と同時に予防することが肝要です。予防策の第一は、ベッドや車イス用マットの交換。体への圧力を分散させるマット（レンタルには介護保険が適用される）を使うと、症状が和らぎ、褥瘡の進行を防ぐことができます。次に、車イスの人は座り方を改善します。後ろにもたれるように座るのではなく、股関節、膝関節、足関節が90度になるように座ると、体重を体の広い面積で受け止めることができます。このほか、「皮膚を清潔に保つ」「乾燥を予防する」「良い栄養状態を保つ」などの注意点を守り、褥瘡になりにくい体をつくっていきます。

入院中はもちろん、退院後もずっと見守ります。

皮膚排泄ケア認定看護師
長崎優子

Talk 01

褥瘡の再発を防ぐには、正しいケアの継続が欠かせません。そのため、褥瘡の患者さんに対し、退院後のフォローに力を入れています。具体的には、退院後1カ月以内にご自宅や施設を訪問し、スキンケアの方法などについて細かくアドバイス。その後も必要に応じて、訪問看護に同行するなどして、継続して見守っています。

褥瘡のある高齢患者さんには栄養改善を提案しています。

訪問看護師（外来所属）
恒川由里

Talk 02

在宅で療養中の高齢患者さんの場合、栄養状態の低下が褥瘡を悪化させていることがよくあります。そんなときは、栄養価の高い食事をアドバイスしたり、介護保険が適用される宅配のお弁当をおすすめすることもあります。そういう社会資源の情報も伝え、褥瘡の治癒をサポートしています。

病院からのお知らせ

01 新任医師紹介

平成30年4月1日から5名の常勤医師を迎えました。力を合わせ、地域医療に貢献していきます。

外科

福本良平
第二外科部長
専門領域:消化器一般

臨床検査技術科

額賀明子
専門領域:外科病理

内科

和田咲子
内科副医長
専門領域:呼吸器内科

後藤 麻友子
内科医長
専門領域:血液内科

皮膚科

加藤香澄
専門領域:皮膚科一般

02 聖霊 地域健康フェスティバル開催のお知らせ

今年で3回目となる「聖霊 地域健康フェスティバル」を下記日程で開催します。地域の皆さまの健康を一緒に考え、楽しみながら医療への理解を深めていただけるように企画をしています。いりなか商店街発展会と共催し、昭和警察署、滝川消防団など多くの方々にご協力いただき開催する予定です。参加は無料、ご家族やご近所の方々と揃ってお越しいただき、楽しい時間をお過ごしください。お待ちしております。

日時 6月16日(土)午前10時～午後2時
場所 聖霊病院 ●階・●階

03 ほぼ手ぶらで入院 CS(ケア・サポート)セット導入

本年1月より入院に必要となる衣類・タオル類・日用品の日額定額制・洗濯付きレンタルサービスを導入しました。入院準備や日用品の補充の手間、洗濯の労力が省け、院内感染対策にもつながり、より快適な入院生活を送っていただけます。また、産婦人科専用プランもございます。

編集後記

青葉若葉が目に染み、爽やかな風が吹く季節5月(陰暦では皐月)、読者の皆さんの中には、この春に新たな生活を始めたという方もいらっしゃるのではないですか。少しずつその生活にも慣れてきた頃でしょうか。さて広報誌「聖風」は、今号で誌面リニューアルからちょうど1年が経過。今後も新しい風をイメージし、読まれ親しまれる広報誌作りをめざしてまいります。

企画広報室(加藤)